Sustainability Report 2025

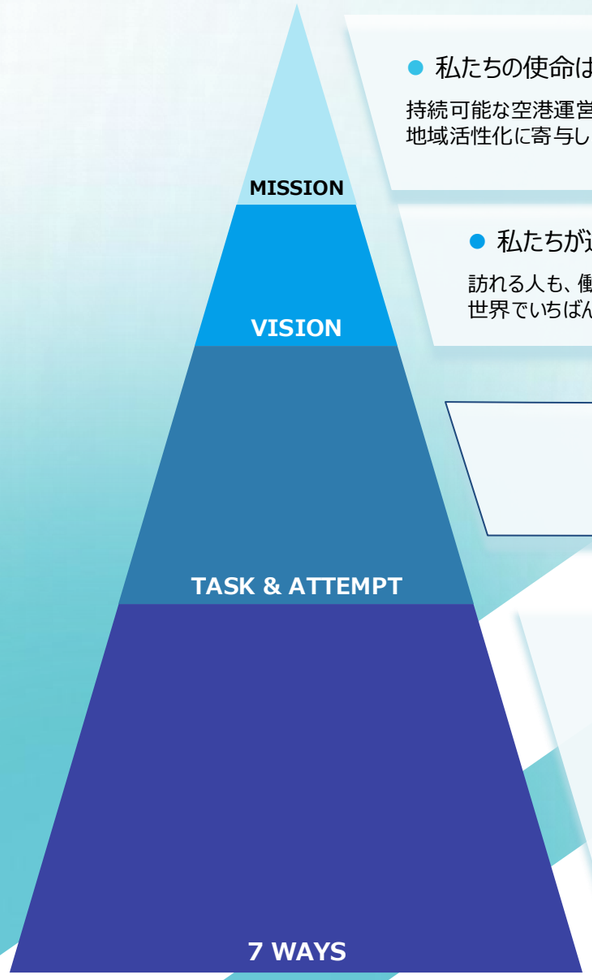
サステナビリティ報告書

熊本国際空港グループ

熊本国際空港株式会社
熊本空港給油施設株式会社
熊本空港警備株式会社
熊本エアポートサービス株式会社

KKIAC VISIONと重要課題

当社グループがESGに配慮した経営に取り組む上で、解決すべき重要課題を選定いたしました。
重要課題の解決によって当社グループの使命（ミッション）を果たすことは、将来ビジョンの実現に寄与するものです。
当社グループの従業員の基盤となる「7WAYS」を行動指針とし、重要課題の具体的解決に取り組みます。



● 私たちの使命は、

持続可能な空港運営を通じて、航空需要の拡大および
地域活性化に寄与し、もって幸福な社会の実現に貢献することである。

● 私たちが達成すべきは、

訪れる人も、働く人も、笑顔になれる、
世界でいちばん居心地のいい空港になることである。

重要課題

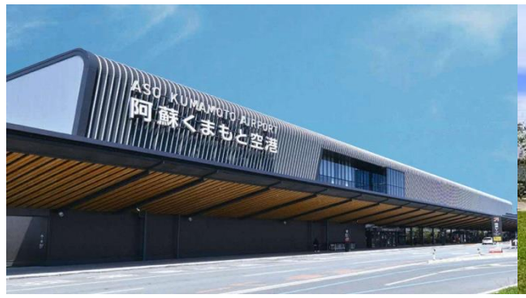
● 私たちの行動指針は、

1.安全最優先
2.地域を愛し、地域の素晴らしさを世界に発信しよう
3.人を思いやれば、なすべきことは見えてくる
4.仲間を思いやり、尊重しよう
5.アイディアは誰が出してもいい
6.変わることを楽しもう
7.一人ひとりが利益を意識しよう

当社グループの使命（ミッション）、将来ビジョンの実現に関わる重要課題

マスタープランの5つの基本方針（参照リンク）に沿った取り組みを進めていきます。

持続可能な空港運営を通じて、幸福な社会の実現に貢献します



2020年4月より熊本国際空港株式会社（KKIAC）は「阿蘇くまもと空港」の航空管制を除く運営業務を開始しました。2023年3月の新旅客ターミナルビルの開業に続き、2024年10月には第二期開業として「そらよかエリア」をオープンし、「世界と地域にひらかれた九州セントラルゲートウェイ」の実現に向けた歩みを進めています。

サステナビリティに関する取組みについては、2021年の開始以来、解決すべき重要課題を選定し、具体的な取組みを進めてまいりました。本レポートでは、KKIACグループ全体での社会課題の解決と持続的な成長の両立を目的に、中期事業計画と各重要課題の解決を連動させた「熊本国際空港グループの価値創造プロセス」と各重要課題の目標・進捗状況、グループ各社の取組みを新たに掲載しております。

今後も、グループ全体での取組みと進捗管理を進め、ステークホルダーの皆さまに対して透明性のある情報を発信し、持続可能な空港運営の実現に向けて取り組んでまいります。

INDEX

01	熊本国際空港グループの価値創造プロセス	03-04
02	代表取締役社長インタビュー	05-06
03	これまでのSDGsへの取組み	07
04	サステナビリティ推進体制	08
05	重要課題1「安全・安心な空港運営の実現」	09-10
06	重要課題2「地域社会の創造的復興への貢献」	11-12
07	重要課題3「環境への配慮」	13-14
08	重要課題4「すべての働く人が活躍・成長できる環境の整備」	15-16
09	熊本国際空港グループ各社の紹介	17-18
10	報告書に関するお問い合わせ	19

熊本国際空港グループの価値創造プロセス

「世界と地域にひらかれた九州セントラルゲートウェイの実現」に向けて、社会課題の解決と当社グループの持続的な成長の両立を目指します。
外部環境の変化を踏まえて、中期事業計画（2025-2029年度）で策定した戦略の実行と重要課題の解決を連動させ、具体的な取組みを推進します。

世界と地域にひらかれた九州セントラルゲートウェイの実現

認識している外部環境の変化

- ◆ 自然災害、航空事故、サイバーリスク等の増加・甚大化
- ◆ 半導体・観光需要の増加、地域の労働力不足
- ◆ 航空分野・地域の脱炭素化、環境負荷低減
- ◆ 人材の多様性・専門性の拡充

外部環境分析

当社グループの経営資本

製造資本
東アジア・九州地域と接続可能な立地
レジリエントかつ快適な施設・設備
実効的・効率的な検査設備

社会関係資本
ステークホルダーとの連携による有事対応力
二次交通ネットワークの構築
空港起点の国内外・九州地域のつながり

財務資本
熊本の魅力発信による旅客数の増加
サービス品質向上による施設利用者の増加
安全性・快適さの追求のための投資

自然資本
空港施設・設備・車両の脱炭素化
航空業界全体の脱炭素化への貢献
熊本の森林・水資源の保全・利活用

人的・知的資本
安全文化の浸透
高度な専門性・業務品質
AI・DX活用による効率化

中期事業計画の戦略（2025-2029）

基本方針・施策方針

空港全体のレジリエンス確保

- 東アジア路線の戦略的誘致
- 二次交通の拡大・拡充
- 世界水準の空港体験の提供
- 地域との連携強化による需要創造

事業基盤の構築

カーボンニュートラルの実現

適切な要員確保・配置

解決すべき重要課題

重要課題

重要課題1
安全・安心な空港運営の実現

重要課題2
地域社会の創造的復興への貢献

重要課題3
環境への配慮

重要課題4
すべての働く人が活躍・成長できる
環境の整備

持続可能な社会への貢献

©2010熊本県くまモン

社会価値・経済価値の創出

- 安全・安心でレジリエントな航空インフラ
- 九州地域のヒト・モノの交流促進
- 航空業界・地域の脱炭素化
- 社員がいきいきと働く姿

社会価値・経済価値の還元による資本の強化

代表取締役社長インタビュー

第二期開業を経て、マスタープランの高みを目指して

2024年10月に、当社はダイニングとパーク、ビジターセンターから構成される「そらよかエリア」をオープンし、第二期開業を迎えました。
2023年の「新旅客ターミナルビル」の開業と合わせ、熊本県の「新大空港構想」が掲げる「訪れる全ての人が楽しむことができる空港」の実現に向けて、大きな一歩を踏み出しました。

当社グループを取り巻く環境に目を向けると、新型コロナウイルス感染症の収束により、ビジネス・観光等を目的とした国内外の人の移動が、再び活発化しています。また、台湾積体電路製造　（TSMC）の半導体工場開設を機に、国内外から熊本県へ注目が集まり、県全体の社会・経済の姿も大きく変わりつつあります。
こうした背景から、人やモノが運ばれる「拠点」という空港の本質的な役割が、これまでになく求められている状況です。熊本空港を離発着する航空便の搭乗率は、平均80%以上（2024年度）まで増加しています。 また、国際線の就航便数は週42便に達し、これは地方空港でナンバーワンの数字です。（2025年8月時点）

一方、急速な運航便数増加への対応にあたり、人材確保やオペレーションの効率化といった課題の解決が重要度を増しています。「マスタープラン」に掲げる「2051年度に旅客数622万人」を達成するため、エアラインのカウンターやグランドハンドリング業務、二次交通など、空港内外を取り巻く環境や関連するステークホルダーを俯瞰し、全ての人にとって利便性の高い空港の実現に向けて、改善を重ねてまいります。

今、あらためて重要な「KKIAC VISION」の実現

KKIAC VISIONはKKIACグループの目指すべき姿として、民間委託前に策定されました。同VISIONが掲げるMISSION（当社グループの使命）、VISION（当社グループが達成すべきこと）は、当社グループの現在、そして将来を考える上で、真に迫る内容となっています。当社グループの使命である「持続可能な空港運営を通じて、『航空需要の拡大』および『地域活性化』に寄与し、もって幸福な社会の実現に貢献する」は、空港運営の円滑化のみを考えていても達成できません。例えば、航空需要の拡大に伴う人・モノの移動の増加は、周辺地域の方々が利用する交通手段の不足、空港周辺道路の渋滞などの課題も生み出します。特に二次交通の不足は、お客さまの利便性低下にもつながる事態です。地域のステークホルダーの皆さまとの協力を深めることで、周辺地域と当社グループが共に発展していけるような空港運営が必要です。

また「訪れる人も、働く人も、笑顔になれる、世界でいちばん居心地のいい空港になる」ためには、空港を単なるインフラではなく、空港内外の多様なステークホルダーが利用できる「街」として捉えることが重要です。訪れる人々にとっては快適で親しみやすく、働く人々にとっては充実した職場環境を整備することが、空港全体の魅力の向上につながります。事業目的での利用や当社グループを活かした情報発信など、空港機能に新たな付加価値をもたらす取組みも積極的に支援したいと考えています。

私が前職で携わった東京ミッドタウンの開発では、住居やオフィス、美術館など、様々な機能を複合した「街」の運営について考え、実践しました。当空港も「旅客エリア」「商業棟」「観光交流エリア」「にぎわい広場」などの複合的な機能があり、出発旅客や事業者、地域の方々などが関わる一つの「街」といえます。街づくりの過程では、共通の目的に向けて社内外のステークホルダーと連携し、互いの力を引き出す必要があります。互いにWin-Winの関係になることを意識しながら、VISION達成に必要な具体的取組みを進める必要があります。

「中期事業計画」の達成に不可欠な「安全・安心の実現」「創造的復興への貢献」

VISIONの達成には、４つの重要課題の解決が不可欠です。特に、以下に掲げる「重要課題１」「重要課題２」の解決に向けた具体的取組みは、ビジョン実現のための５つの基本方針（以下、基本方針）と、中期事業計画（2025-2029）が定める各種施策方針（以下、施策方針）と直結しており、当社グループ全体の成長戦略として優先的に取り組む必要があります。
「重要課題１：安全・安心な空港運営の実現」は、当社グループのあらゆる活動の基盤です。中期事業計画で掲げた2029年度目標「旅客数417万人、連結売上高104億円」の実現には、安全・安心な空港運営が不可欠であり、グループ各社の一人ひとりが施策方針に沿った行動を積み上げることが求められます。

「重要課題２：地域社会の創造的復興への貢献」は、５つの基本方針のうち４つに深く関連する重要なテーマです。当社グループから熊本の魅力を世界に発信することで地域産業の育成と活性化を促し、創造的復興の一翼を担うことを目指しています。
例えば、これまで当空港では通関や検疫などの体制が整っておらず、熊本の農畜産品は県外の空港から輸出されていましたが、現在では各種環境が整い、直接海外へ輸出できるようになりました。熊本県産品を県内外へ新鮮な状態でお届けすることで、より多くの人々に熊本の魅力を発信することを目指しています。
今後はインバウンドだけでなくアウトバウンドのプロモーションにも力を入れ、日本の若い世代に海外文化を体験する機会を提供したいと考えています。

熊本県が開発した柑橘「ゆうばれ」が、
当社から台湾へ初輸出

また、基本方針の一つ「世界水準の空港体験の提供」に向けて、施策方針の一つとして「お客さまの利便性や満足度向上」を掲げ、お客さまのご意見の分析・反映を継続しています。
さらに、そらよかエリア内の「そらよかパーク」 では、マルシェなどの地域共催イベントを定期的に開催しています。私も、そらよかパークで子どもたちが遊ぶ姿を見て、ご家族で空港を訪れた方が安心して楽しめる空間を今後も提供していきたいと、改めて決意した次第です。

「そらよかパーク」に設置された枝立温泉の「鯉のぼり」

「カーボンニュートラル」「適切な要員確保・配置」は持続可能な空港運営の基盤

「事業基盤の構築」にあたって、これからの「事業活動上の戦略」にかかせないのが、「カーボンニュートラルの実現」です。
気候変動の進行によって、フライト中の乱気流の増加に伴う航空便の遅延・欠航や空港施設・設備への風水災害の影響が懸念されており、これらは空港運営にとって深刻な脅威です。同時に、航空業界は全世界のGHG排出量の約2%を占めることから、気候変動対策への積極的な貢献が求められています。気候変動に関する取組みは「重要課題３：環境への配慮」の中心を占めており、「再生可能エネルギーの導入」や「空港施設・車両のCO_2排出削減」など、当社グループ全体で脱炭素化を進めています。

また航空業界全体の脱炭素化に対して、当社グループが果たす役割も重要です。現在、日本航空株式会社と共同で、空港内の作業車両にバイオディーゼル燃料を使用する国内初の実証実験を進めています。
2025年3月には、空港内の廃食用油をSAF（持続可能な航空燃料）製造に再利用する取組みについて、ENEOS株式会社と協定を締結しました。廃食用油の再利用は、資源循環や、環境負荷の低減にも貢献します。産学官の連携でトライアルを重ね、カーボンニュートラルの実現と地域の自然環境への負荷を軽減することは、空港運営の持続可能性の向上にもつながります。

ENEOS株式会社との連携協定締結式

最後に、これらの取組みは全て「人」によって支えられています。「適切な要員確保・配置」は、「重要課題４：すべての働く人が活躍・成長できる環境の整備」に向けた“通過点”のひとつです。当空港が訪れる人にとって魅力的な「街」であるためには、「住人」である社員一人ひとりが笑顔で、いきいきと働く姿が不可欠です。ステークホルダーの期待に応えながら、「街」を発展させるためには、KKIACグループの一人ひとりが経験を積み、成長した結果を業務にフィードバックする作業が重要になります。
現在、若手社員に熊本空港に就航している国際線フライトを体験してもらい、そこで得た知見を空港全体のサービスの改善策に反映させるなどの取組みを進めています。社員一人ひとりの成長を風通しのよいコミュニケーションによって繋げることが、KKIAC VISIONの達成への歩みになると考えています。

読者の皆さまへ

繰り返しになりますが、阿蘇くまもと空港という「街」を、社内外のステークホルダーが各自の目的や成長に活用できる環境として整備することが、「訪れる人も、働く人も笑顔になれる、世界でいちばん居心地のいい空港」の実現につながると考えています。
当報告書が、ステークホルダーの皆さまと私たちの目指す方向性を共有し、共に成長していくための架け橋となることを強く願っています。

これまでのSDGsへの取組み

2021年度からSDGsへの取組みの検討を開始し、熊本県SDGs登録制度への申請、SDGs宣言の公開等、これまで段階的に取組みを進めてまいりました。

2024年度に各重要課題の担当部門を改めて設定し、推進中の取組みについて「SDGs Report2024」に整理・公表いたしました。本報告書では新たに①各重要課題の解決に向けた目標・進捗状況、②グループ各社の取組みについて反映しております。

今後は、重要課題の解決に向けた指標の進捗管理を通じて、2030年のSDGsの目標達成や2050年のカーボンニュートラルといった中長期のあるべき姿を実現するため、更なる取組みの推進に努めます。

重要課題の特定プロセス

STEP1 課題の棚卸

SDGsの169のターゲット、「熊本県まち・ひと・しごと創生総合戦略」、熊本県SDGs登録制度の要件等を踏まえ、当社グループを取り巻く課題を整理

STEP2 取組みの現状、SDGsに対する考えの整理

経営陣や各部門に、当社グループを取り巻く課題に対する認識と、対策の現状を確認

STEP3 重要課題を選定

以下の2つの側面から評価し、４つの重要課題を選定
・ステークホルダーにとっての重要性：当社グループを取り巻く課題、ステークホルダーからの期待　等
・当社グループにとっての重要性　：企業文化・価値観、各種中長期計画、課題に対する現状認識　等

STEP4 重要課題の取組み方針、取組みの効果の整理

各重要課題にどのように取り組むべきかを整理
取組みによって見込まれる効果について、「SDGsへの貢献」「ステークホルダー」「自社」の観点から整理

サステナビリティ推進体制

重要課題ごとに主担当本部を設定し、SDGsの取組みを進めています。
各重要課題の進捗状況は、SDGs推進委員会へ定期的に報告され、経営層が取組み状況を確認します。

SDGs推進委員会	
委員長	代表取締役社長
副委員長	取締役副社長
委員	常勤取締役、常勤監査役、執行役員、各部門長

重要課題	主担当本部
「安全・安心な空港運営の実現」	空港運用本部
「地域社会の創造的復興への貢献」	営業本部
「環境への配慮」	空港運用本部
「すべての働く人が活躍・成長できる環境の整備」	経営企画本部

「訪れる人も働く人も笑顔になれる空港」の具現化に向けて

監査役
長谷川　豊

今回、各重要課題の解決についてKPIを設定することで、具体的な取組みの積み重ねと進捗管理がこれまで以上に求められます。可視化された目標の下、日常業務の一環としてKPI達成への貢献も同時に可能になる体制構築やルール整備が重要です。

また、各重要課題には主担当の本部が設定されていますが、KKIACグループの全員が全ての取組みに関わりがあるという意識を持つことが重要です。グループ各社が一丸となって行動することで、空港全体での事業および地域間のあらゆる相乗効果を生み出し、「訪れる人も働く人も笑顔になれる空港」を実現します。

これからも監査役として取組みの過程をしっかりと見守り、支えていきたいと考えています。

重要課題１：安全・安心な空港運営の実現

取組方針

一人ひとりが安全・安心の担い手として、レジリエントな空港サービスを提供します

取組みの背景

安全・安心な空港運営は、当社グループのあらゆる活動の基盤であり、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまの期待が最も大きいテーマです。熊本地震や令和2年7月豪雨といった自然災害や、世界的なサイバー攻撃の増加等、空港運営を取り巻くリスクの多様化・甚大化が進んでいます。

また、運航路線・便数の安定的拡大に向けて、航空機や地上車両の事故、ハイジャック等の防止といった、保安防災に関する対応の重要性が高まっています。

ステークホルダーとの連携の下、日々の点検・検査・警備を通じた事故・トラブルの予防や、BCPの整備・各種訓練の強化等、空港のレジリエンス向上に取り組んでいます。

課題解決に向けた取組みのKPI・進捗

課題解決に向けた取組み		取組みのKPI	目標年	2024年度進捗
1．安全・安心なサービスの提供	施策１：日常点検の着実な実施	業務由来の事故ゼロ継続	2030年	事故ゼロ
	施策２：盤石な保安警備・検査体制	警備業従事者の空港保安警備資格取得	2030年	取得率:76.9%
	施策３：DXによる保安警備の高度化	AIシステムやロボット導入、システムの統合等の促進	2030年	旅客ターミナルにてAI監視システム、ロボットの実証実験・本格導入
2．有事への備え	施策１：事故・トラブル・災害発生時の迅速な対応	①航空機事故発生時に備えた訓練：年1回以上 ②保安訓練：年1回以上	2030年	①：年1回実施 ②：年2回実施
	施策２：災害発生時のレジリエンス構築	自治体等との合同訓練：年１回以上	2030年	県総合防災訓練へオブザーブ参加
	施策３：感染症への対応	①検疫所・自治体との合同訓練への参加：年１回以上 ②対応可能な人員の拡大	2030年	①：検疫所訓練実施時の館内導線の机上検討 ②：人事ローテーションによる経験者の拡大

期待する効果

ステークホルダーの皆さまにとって
・有事における航空インフラの維持・活用可能性の拡大
・安全・安心な空港利用

当社グループにとって
・事業停止リスクの低減
・安定的な航空インフラの提供による顧客満足度の向上

関連するSDGs

「業務由来の事故ゼロ」継続に向けて

安全確保のためのミーティング

熊本空港は、制限区域内の車両事故ゼロの記録が1,000日に達しました（2025年6月16日時点）。現在、就航便数の増加に伴い、事故防止に向けた安全管理がこれまで以上に求められています。特に駐機場内のクリアランス（航空機同士や、航空機と車両の衝突を防ぐために必要な距離）の確保のため、厳格なルールの下、細心の注意を払って運営しています。

点検業務に携わる全員が内部資格を取得しており、一人で点検を実施することが可能な体制を整えています。業務上必要な資格については、会社が費用を負担して取得を支援するほか、特定の資格を取得した社員には手当を支給しています。

また、業務において安全を優先した勇気ある判断・対応を取り上げ、社内での表彰、SNS等での事例共有を行っています。こうした日々の取組みを、空港全体の安全意識向上につなげることで、「業務由来の事故ゼロ」継続を目指します。

熊本空港警備会社 × AI・DX

警備職員の適切な対応に対する感謝状の授与

旅客ターミナル内に配備されたAIロボット

当社の保安警備・検査体制の中核を担うのが、グループ会社である「熊本空港警備株式会社」です。現在、全職員のうち約8割が空港に係る警備資格を取得するなど、多くの職員が安全管理に対する高い専門性を有しています。

同社では社員教育の強化などを進めることで、全職員の警備資格取得を目指しています。

旅客ターミナルでは、AI監視システムやロボットが傷病者や不審者を特定し、警備員が迅速に現場対応を行う体制を構築しています。専門性の高い警備人材と、AIを含むDXを組み合わせることで、安全面の強化と職員の負担軽減の両立を目指しています。

事故・トラブル災害時の迅速な対応に向けて

当空港は「広域防災拠点」として、災害時の支援物資発送の拠点となることが想定されています。熊本県や複数の関係機関と具体的対応策を検討するほか、県と協議の上、高遊原分屯地とも港内移動の協定を昨年度に結び、今後協定を生かした具体的な訓練等を行っていきます。その他、エアライン各社やグランドハンドリング会社*、官公庁等で構成される「熊本空港緊急計画連絡協議会」や、コンセッション空港**各社との情報交換等を通じて、有事対応に関する情報共有や関係構築を進めています。

また、有事における対応力の向上のため、シビアアクシデントを想定した保安防災訓練を定期的に実施しています。さらに、昨今発生件数が増加しているサイバー攻撃についても、全社員を対象に不審メール訓練を実施するなど、対策強化を進めています。

*　航空機の離着陸の地上支援作業を担当する企業
**国や自治体が滑走路などの空港施設を所有したまま、運営権を民間企業に長期間付与する運営方式

安全・安心の実現に必要な「想像力」と「チャレンジ」

取締役副社長
空港運用本部長
渡邊 裕二

「安全・安心な空港運営」を実現するためには「想像力」が不可欠です。訓練を通じて、次の一手を考える力を養うことで、有事の際の迅速かつ適切な対応が可能になります。空港内の人材交流や他空港との意見交換、自衛隊との合同訓練などを通じて、KKIACグループの一人ひとりが安全・安心の担い手として成長できる機会を設けていきたいと考えています。究極的に目指すべきは、エアライン等を含む約1,000人の空港関係者全員が、共通の意識の下、一体となり空港運営に取り組む姿です。

「訪れる人も、働く人も、笑顔になれる空港」を実現するためには、お客さまへの配慮を大前提とした上で、トラブル等から職員を守ることも重要です。新入社員が増えている状況も踏まえて、職員が心に余裕を持てる職場づくりを心がけています。

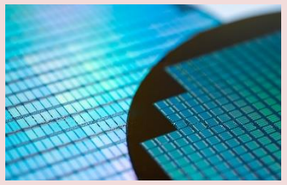
熊本空港は他空港と比較して新しく、規模としてもコンパクトであるため、新たなチャレンジに取り組みやすい環境です。実証実験を通じて実績を作り、実装するプロセスを繰り返しながら、新たな「安全・安心な空港運営」の姿を発信してまいります。

重要課題２：地域社会の創造的復興への貢献

取組方針

「ひらかれた空港」として県内外をつなぎ、熊本の創造的復興に貢献します

取組みの背景



熊本県は、世界最大級のカルデラを有する阿蘇山や、日本三名城の一つである熊本城など、自然・観光資源に恵まれています。また、台湾積体電路製造（TSMC）の工場開設を機に、半導体産業の集積地として経済発展が期待されています。

一方で、県外への人口流出や、基幹産業である農林水産業の後継者不足などの課題は、未だ深刻な状況です。熊本地震、令和2年7月豪雨からの創造的復興についても、多くの課題が残されています。当社グループは航空インフラ機能を活かして、地域の自然・人・産業を結び、熊本の魅力を世界に発信し、地域の課題解決に貢献することが使命と考えています。

課題解決に向けた取組みのKPI・進捗

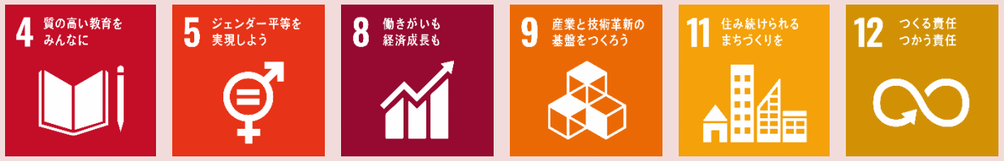
課題解決に向けた取組み		取組みのKPI	目標年	2024年度進捗
1．県内外からのアクセスの改善・ネットワークの拡大	施策１：東アジア路線の戦略的誘致	東アジア路線就航：17路線	2051年	就航済：6路線
	施策２：二次交通の拡大・拡充	空港を発着・経由する路線数：23路線	2051年	路線数：11路線
2．世界と熊本の交流活性化	施策１：多様な人々が快適に過ごせる場づくり	①SKYTRAX：5スター ②総合満足度（航空サービス利用者、非航空サービス利用者）：8.0取得	2051年	プロジェクトチームで検討開始
	施策２：地域にひらかれた空港施設	大型イベント開催：計24回	2026年	12.5回開催
3．産業基盤の育成	施策１：空港テナント・敷地内での県産品提供・PR支援	－	－	－
	施策２：地域企業のイノベーション創出の支援	－	－	－

期待する効果

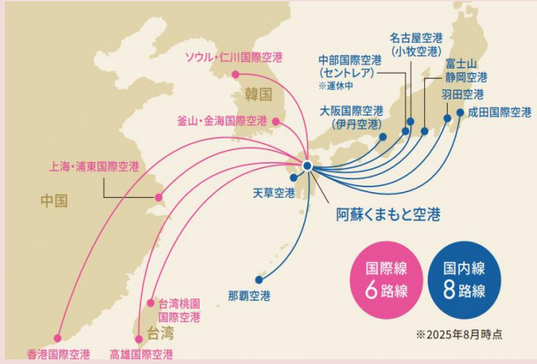
ステークホルダーの皆さまにとって
- 熊本県への往訪者、観光需要の増加
- 空港周辺地域の混雑等の解消
- 地域産業・経済・文化の活性化

当社グループにとって
- 空港利用者の増加、収益向上

関連するSDGs



地方空港No.1の国際線ネットワークを目指して



国内外に広がる航空ネットワーク（2025年8月時点）

国際線ネットワークの拡大

当社は、2051年までに国際線ネットワークを17路線まで拡大する目標を掲げています。国際線定期便は、現時点で6路線（仁川、釜山、上海、香港、高雄、台北桃園）が復便または新規就航しました。各運航便数の合計は週42便と地方空港No.1の規模に達しました。（2025年8月時点）

今後は東南アジア地域の路線開拓にも注力する予定です。

地域の交通ネットワークへの貢献

空港からの二次交通の拡充は、人々の往来と地域経済の活性化にとって重要な課題です。 お客さまの利便性向上のため、九州北部方面の路線の拡充や都市間バスの乗継乗車券の活用による利便性向上を目指しています。現在は、相乗りタクシーや周遊バスの運行など二次交通モードの多様化により、周辺地域の方々の交通手段としても一役買っています。

熊本エアポートサービス株式会社　×　接客品質

グループ会社の「熊本エアポートサービス株式会社」を中心に、国内線・国際線の搭乗待合エリアの接客品質の向上に取り組んでいます。免税店では、中国語、韓国語、英語に対応可能な人材の採用、翻訳アプリの導入など、訪日客への対応体制を拡充しています。

今後は、毎年実施している保税研修だけでなく、全職員向けの接遇研修や階層別研修など、年間計画に基づき実施していく予定です。

グループ一丸となって「多様な人々が快適に過ごせる場づくり」を意識して取組みを積み重ねることで、英国SKYTRAX社の「World Airport Star Rating」で最高評価「５スター」の獲得を目指します。

世界と熊本の交流活性化に向けて

熊本空港マラソンの光景

熊本空港を訪れる方々に熊本県の魅力を体感していただくため、企業や自治体と連携したイベントを定期的に開催しています。2024年度は大型イベントを年間12回以上開催し、多くの方々にご参加いただきました。
「熊本空港マラソン」や「阿蘇くまもと空港星空観望会」など、滑走路で開催するイベントも好評を博しています。

仁川国際空港での締結式

桃園国際空港での締結式

熊本と就航都市との更なる交流促進と国際線ネットワーク強化、空港間の情報共有による効率的な空港運営実現のため、仁川国際空港(韓国/ソウル)、桃園国際空港(台湾/台北)と空港間連携協定(MOU)を締結しました。

「空港での体験価値」を、創造的復興につなげるために

取締役
営業本部長
久本　正則

当社がコンセッション化された重要な目的は、熊本県の創造的復興への貢献にあります。SNSによる発信だけでなく、国内外の各地へ赴き、熊本の魅力をお届けすることで、交流人口の増加を目指しています。

また、お客さまが最初に到着される熊本空港での体験は、その後の旅程での熊本の印象を大きく左右します。空港内での接客・サービス品質にこだわり、外部講師による研修や社内インストラクターの育成など、たゆまぬ研鑽を積み重ねています。

そしてお客さまが熊本を訪れる目的である観光やビジネスをよりよいものにするためには、働く人々が安心して意見を出し合い、イノベーションが創出される社内環境が不可欠です。若手社員の意見もしっかりと受け入れ、部署間・グループ会社間の連携を深めることで、風通しのよい職場環境づくりを進めています。

当空港が地方創生のモデルケースになることを目指して、社外への情報発信、社内環境の整備を引き続き加速してまいります。

重要課題３：環境への配慮

取組方針

ステークホルダーの皆さまと共に、自然環境の持続可能性に貢献します

取組みの背景

気候変動による気温上昇や、風水災・山火事などの自然災害の深刻化は、社会全体の持続可能性や安全・安心な空港運営にとって重大な脅威です。気候変動の抑制に向けて、当社グループの取組みを強化するだけでなく、航空分野全体の脱炭素化の推進に貢献することが求められています。また白川地域・緑川地域などの森林資源と、熊本の豊かな水資源は相互に深く結びついており、生活・産業に不可欠な資源として、当該地域の自然環境の持続可能性を追求する必要があります。

当社グループは、カーボンニュートラルの実現と環境負荷の軽減に向けた取組みを推進することで、自然環境の持続可能性の向上に貢献してまいります。

課題解決に向けた取組みのKPI・進捗

課題解決に向けた取組み		取組みのKPI	目標年	2024年度進捗
1．2050年カーボンニュートラルの実現	脱炭素化に向けたCO_2排出量削減	①50%削減 ②カーボンニュートラル達成	①2030年 ②2050年	40%削減
	施策１：再生可能エネルギーの導入	10年後の空港における旅客1人当たりのエネルギー消費量：10%削減（2016年度比）	2030年	26%削減
	施策２：空港施設からのCO_2排出量削減	飛行場灯火のLED化：100%	2030年	43.3%導入
	施策３：空港車両からのCO_2排出量削減	空港関係車両1台当たりのCO_2排出量：5%削減（2016年度比）	2030年	3%増
2．環境への影響の軽減	施策１：廃棄物の削減	①一般廃棄物のリサイクル率：25%（2018年度比） ②一般廃棄物の(a)空港全体、(b)旅客一人当たりの発生量：20%削減（2018年度比）	2051年	①：30% ②-(a)：23%増 ②-(b)：1%減
	施策２：地域の自然資源の保全を意識した活用	①空港旅客1人当たりの上水使用量：20L以下 ②土壌汚染の発生：ゼロ	2029年	①：9.1L/人 ②：なし

期待する効果

ステークホルダーの皆さまにとって
・地域の脱炭素化、環境負荷軽減への貢献

当社グループにとって
・気候変動等の環境負荷の緩和による空港運営の中長期的な安定化

関連するSDGs

空港施設のZEB化を目指して

駐車場に設置された太陽光発電設備

九州電力株式会社と三井不動産株式会社との電力購入契約（PPA）によってカーポート型の太陽光発電設備を導入し、年間1,300MWhの電力を新旅客ターミナルビルに供給しています。

今後は、飛行場灯火のLED化、夜間消灯や空調設備の運転見直しなどの省エネ取組みを推進し、再生可能エネルギーの活用と併せることで、空港施設のZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化を目指します。

熊本空港給油施設株式会社　×　空港車両の脱炭素化

B30燃料の給油設備

グループ会社の「熊本給油施設株式会社」は、日本航空株式会社のトーイングトラクターに「B30燃料（高純度バイオディーゼル燃料30%と軽油70%の混合燃料）」を使用する国内初の実証実験に参加しています。この取組みによって、通常の軽油を使用した場合と比較して、トーイングトラクターのCO_2排出量を約30%削減する効果が期待されます。

今後もエアライン各社と協力し、空港内の車両・機材のCO_2排出量削減を進めます。

資源循環を通じたCO_2排出量削減

廃食油（左）とSAF（右）

2025年3月に、ENEOS株式会社と廃食用油をSAF*に循環させる協定を締結しました。空港内の飲食店から排出される廃食用油を回収し、ENEOSが建設予定のSAFプラントで活用します

SAFの場合、原油からジェット燃料を精製する場合と比較してCO_2排出量を60～80%削減可能です。

＊ 化石燃料以外の原料から製造される航空燃料の総称。

サントリーグループとの協定締結式

2024年6月には益城町、サントリーグループと「ボトルtoボトル」水平リサイクル協定を締結しました。空港で回収されたペットボトルは益城クリーンセンターで選別され、水俣市で再生処理された後、新たなペットボトルとして再生します。当該プロセスは、石油由来原料と比較してCO_2排出量を約60%削減可能です。

熊本の自然資源の適切な保全・利活用

小国杉の合板を使用した天井板

新旅客ターミナルビルには、適正な森林管理で産出された「SGEC認証材」の小国杉や、東京五輪の選手村で使用された熊本県産レガシー材を再利用しています。

今後の中長期的な取組みとして、空港施設から年間約400トン排出される刈草の有効活用に向けて、東海大学農学部と検討中です。

また、「そらよかエリア」でも、自然資源の保全と利活用に向けた取組みを進めています。そらよかビジターセンター内にある「くまもとSDGsミライパーク」は、全国初のSDGs教育専門施設であり、県内外の企業が取り組むSDGsに関する展示エリアの見学やワークショップを通して、自然環境の保全や利活用について体系的に学べる仕組みになっています。

空の玄関口で知る「航空業界の脱炭素化」と「熊本の自然資源」

取締役副社長
空港運用本部長
渡邊 裕二

カーボンニュートラルの達成は、今や企業活動において当然の責務です。当社グループも、2050年のカーボンニュートラル実現を重要な目標の一つに掲げ、地域の皆さまや産学官と連携しながら、着実に取組みを進めています。

航空業界において不可欠な取組みの一つに、SAFの導入があります。2024年度には空港内から排出される廃食用油をSAF製造に活用する協定を締結しましたが、将来的には、SAFを使用する航空機に対応できる空港を目指す必要があります。

また、空港施設のZEB化や、空港内を走行する車両のEV化についても、段階的に設備投資を行いながら、進めていく予定です。

コンセッション化以前を含めると、開港後54年にわたり熊本の玄関口として多くの皆さまにご利用いただいています。当社グループが、熊本の自然資源の保全と利活用について知るきっかけとなることで、より良い地域環境を形成するとともに、持続可能な空港運営の実現を目指してまいります。

重要課題４：すべての働く人が活躍・成長できる環境の整備

取組方針

KKIAC VISIONの下、仲間を思いやり、多様な人材の創意を高める職場環境を目指します

取組みの背景

持続可能な空港運営の原動力は人材であると考えています。航空業界全体でも、人材獲得・育成の重要性が高まっています。当社グループにおいても、就航路線・便数の安定的拡大の実現に向けて、多様な人材の確保や、社員一人ひとりの専門性の向上、創意工夫の発揮が不可欠です。誰もが健康に活躍できる環境を前提に、人材採用・育成制度の強化、従業員間のオープンなコミュニケーションの促進を、空港業務・サービスの向上に還元することで、「訪れる人も、働く人も、笑顔になれる、世界でいちばん居心地のいい空港」の実現を目指します。

また航空業界の魅力を発信し、関心を高める役割を担うことで、中長期的な航空業界の人材拡大に貢献していきます。

課題解決に向けた取組みのKPI・進捗

課題解決に向けた取組み		取組みのKPI	目標年	2024年度進捗
1．多様な人材の活躍機会の創出	施策１：誰もが活躍できる環境の提供	①グループ全体の女性管理職比率の拡大 ②グループ全体の育児休業取得率・復職率の向上 【育児休業取得率】 ➢女性：100% ➢男性：85% 【復職率】 ➢女性：100% ➢男性：100%	2030年	①：12.6% ②： 【育児休業取得率】 ➢女性：100% ➢男性：66% 【復職率】 ➢女性：100% ➢男性：100%
	施策２：未来の人材の獲得	・人材獲得施策の実施	2029年度	・熊本空港合同企業説明会の初開催 ・熊本県内学生奨学金基金への参画
2．笑顔で働ける環境	施策：健康に働ける環境づくり	・有給休暇取得率：70%	2028年	・有給休暇取得率：67%

期待する効果

ステークホルダーの皆さまにとって
- 従業員のワークライフバランスの確保
- 従業員の業務を通じた自己実現
- 空港利用者へのサービス品質の向上

当社グループにとって
- サービス品質向上による顧客満足度の向上
- 従業員定着率の向上

関連するSDGs

多様な人材が笑顔で、活躍できる職場づくり

誰もが活躍できる職場を目指して

グループ全体で多様な社員がキャリア形成可能な柔軟な働き方を推奨しており、フレックス制度の導入、在宅勤務が可能な環境の整備、役職定年の年齢引き上げなどを進めることで、自由かつ長く働き続けたいと思える職場づくりを進めています。

また女性管理職比率の拡大、育児・介護休暇の取得率向上に向けた取組みを進めています。現在、女性の育児休業取得率は100%ですが、今後は男性の育児休業取得率を政府目標の85%まで引き上げることを目指します。

健康経営の推進

当社ではまた、熊本県の「ブライト企業認定」の取得*や「よかボス企業」**への登録など、社員が健康的に笑顔で働ける環境づくりを目指しています。

特に、有給休暇の取得率向上に向けて2028年度までの目標を設定し、経営者からのメッセージの下、部署別の管理・対策を進めています。安全衛生委員会でも社員の残業時間を確認し、残業時間が多い部門に対して対策の策定と実施、結果公表を指示しています。

*　働く人がいきいきと輝き安心して働き続けられる企業を認定する制度

**　企業トップ自ら仕事と生活の充実に取り組むとともに、共に働く社員の仕事や結婚、子育て、介護等、生活の充実を応援する企業を登録する制度

「ブライト企業認定」（左）
「よかボス企業」（右）

未来の人材の獲得に向けて

空港関係者全体の人材確保

当社グループは「KKIACグループへの共感」「自主・自立」「未来を担う意欲・覚悟」をテーマに、多様な人材の採用に力を入れています。

2024年9月には、グループ各社やグランドハンドリング会社と「熊本空港合同企業説明会」を初めて開催し、実際の職場の見学などを通じて、空港を支える多様な業務を解説しました。

今後は、組織的な育成制度を構築し、人材教育に注力する予定です。自ら環境を変え、積極的にチャレンジする姿勢を持つ方に、ぜひ未来の空港運営を担っていただきたいと考えています。

航空業界の魅力を伝えるために

空港の魅力を伝える広報誌「Sorayoka（そらよか）」の定期刊行や、インスタグラムを活用した情報発信によって、航空業界全体の魅力を伝えています。幼稚園や学校向けの空港見学も継続的に開催し、航空業界に対する子どもたちの興味関心を育んでいます。2025年4月からは九州産交グループと協同で、駐機場等の制限区域をバスで巡る「阿蘇くまもと空港そらよかツアー」を開始しており、空港の音と空気に直接触れることで、当空港の魅力を味わえる企画となっています。

広報誌を年4回発行

バスの中から地上作業等を見学

バスから降りて航空機の離着陸を見学

一人ひとりのチャレンジが、空港を「ハレ」の場にする

執行役員
経営企画本部長
友清 佳樹

お客さまは、空港を訪れる際、これから始まる特別な旅に期待しています。だからこそ空の玄関口である空港が、活気ある「ハレ」の場所であることが重要です。

そのためには、グループ各社の一人ひとりがチャレンジ精神を持ち、自発的に行動できる職場環境を整えることが重要です。育休や介護休暇の取得促進、時短勤務、フレックス制度、役職定年の引き上げなど、社員が長く働けるための多様な制度づくりを進めています。

今後の課題は、「育成」を通じてグループ各社の一人ひとりの意識改革を進めることです。職場のメンバーがチャレンジ精神を持ち、いきいきと働くためには、マネジメント層の育成が不可欠です。同時に、新卒採用、中途採用に力を入れていることから、体系的な育成制度の整備も進めています。

当社グループは、個々の社員が成果を発揮する機会が豊富にあり、とてもやりがいのある職場だと思います。一人ひとりが失敗を恐れず、スピード感を持って取り組む姿勢を大切にして、お客さまのためにチャレンジを続けてまいります。

熊本国際空港グループ各社の紹介

KKIACグループの各社が航空燃料供給や空港警備、旅客サービス等を担うことで、熊本空港の迅速・盤石な運営体制を構築しています。
またグループ各社の事業特性・強みを活かし、重要課題の解決に貢献しています。

熊本空港給油施設株式会社

設立
- 旧「熊本空港ビルディング株式会社」の業務を移管する形で、航空会社との合同出資により設立

事業内容
- 航空燃料タンクへの燃料の搬入・搬出、品質・貯蔵管理、施設機器の保守管理業務
- 石油製品販売・管理業務
（ヘリコプター用燃料、小型飛行機用燃料等）
- ガソリンスタンド業務
- 空港職員専用駐車場の管理業務
- レンタカー貸渡業務

設立年月日 昭和54（1979）年10月25日
資本金 50百万円
株主 熊本国際空港（株）51%、航空会社49%
従業員数 15名（男性11名/女性4名）（2025年3月31日時点）

安全・安定した燃料供給の実現

当社は航空燃料などの危険物を扱うため、「事故ゼロ」を掲げ、安全を最優先に業務に取り組んでいます。毎月、出火や漏洩などを想定した訓練を行い、万が一の事態に備えた流出防止策や地下水への影響抑止策も実施しています。
また、KKIACの安全保安委員会に参加し、セルフモニタリングを通じてグループ全体の安全意識の向上に貢献しています。

社員の成長が、会社のエネルギーに

当社は、社員の成長を支援することで、会社も共に成長することを目指しています。業務上必要となる資格については、取得に向けてサポートするほか、取得者には資格手当を支給しています。
現在、当社では採用活動を積極的に行っています。若手社員から能力を発揮し、実践的な経験を積める当社で働きたいという方を、心よりお待ちしています。

熊本空港警備株式会社

設立
- 旧「熊本空港ビルディング株式会社」の保安・施設整備業務を移管する形で設立

事業内容
- 旅客の手荷物等の保安検査業務
- 航空機への不法行為防止
- 不審人物立ち入りの防止に向けた監視業務
- 空港施設内の警備業務

設立年月日 平成14（2002）年11月7日
資本金 10百万円
株主 熊本国際空港（株）100%
従業員数 124名（男性85名/女性39名）（2025年3月31日時点）

「人」×「AI」で、空の旅をリスクから守る

当社は、自社採用の社員が警備業務を担当することで、高度な専門性と信頼性を確保しています。全職員が保安検査資格を有し、資格取得後も強化研修や技術チェックを行っています。
現在、国際線の増便に伴い、不測の事態への対策がこれまで以上に重要です。旅客ターミナル内のAI・ロボットとの連携や、専門性の高い人員の配置により、盤石な体制を構築しています。

高い専門性・モチベーションを促す職場づくり

採用活動における会社説明では、模擬バッグを使用して、具体的な航空保安検査方法を紹介するなど、体系的に理解しやすい内容を企画しています。
また、資格取得の支援、保有資格に応じた手当の支給、勤務期間に比例して手当が増える制度など、社員が専門性を発揮し、モチベーションを高く持って働ける職場を目指しています。

熊本エアポートサービス株式会社

設立
- 旧「熊本空港ビルディング株式会社」の業務を移管する形で県産銘菓出品店協会等と合併し、設立

事業内容
- 空港内の店舗運営・接客（旅客ターミナルビル1F あそ～らロビー店、旅客ターミナルビル3F搭乗ゲート内　あそ～らゲート店）
- 県産銘菓・土産雑貨、陸・海産物加工品、飲料類、酒類、その他食品類の販売
- 商品発注・管理・販促

設立年月日 平成8（1996）年5月30日
資本金 20百万円
株主 熊本国際空港（株）100%
従業員数 39名（男性2名/女性37名）（2025年3月31日時点）

発想力と主体性で、熊本の魅力を発信

当社は旅客ターミナルビル内の「あそ～ら」店舗で、熊本県産品の魅力を発信しています。チーム対抗の販促策や、他空港やサービスエリアの視察を通じて、接客品質の向上に努めています。
インスタグラムでは社員のアイデアで季節感を取り入れた情報を発信するなど、主体性を尊重した取組みを通じて、会社全体の活力の向上につなげています。

柔軟な働き方で、一人ひとりの能力発揮へ

当社は女性社員が9割超を占めており、柔軟な働き方やキャリアパスの提供に力を入れています。
また、新卒採用も強化しており、全社員の約1/4を新卒者が占めています。採用活動で当社業務を説明する際は、普段見ることができない従業員通路やエアラインのバックヤードの見学など、具体的な業務のイメージを持っていただくための企画をしています。

報告書に関するお問い合わせ

熊本国際空港株式会社　SDGs推進委員会事務局
（経営企画本部　総務･経理部 内）

電話：096-232-2311

ウェブサイト：https://www.kumamoto-airport.co.jp/